日中における親しさの表し方に関する考察

－ほめの返答に着目して－

戸森 優季

【キーワード】
ほめの返答、親しさの示し方、語用論的転移

【要旨】
本稿では、日本語母語話者と中国人日本語学習者を対象に同等の関係における所持物のほめの返答について対照研究を行った。その中で中国人日本語学習者が日本での滞在期間の長さに関係なく、友達とのほめの返答において「親しさ」の示し方に関する語用論的転移をおこすことを明らかにした。

1. はじめに

近年、円滑な人間関係の構築に「ほめ」を活用しようという考えが日本でも広まり、「ほめ」のやりとりを含む会話は以前より身近なものとなってきた。しかし、ほめや返答においてどういった反応が好まれるかは文化によって異なることが多く、様々な文化的背景を持つ日本語学習者が日本語母語話者とのほめの場面でミス・コミュニケーションを引き起こす可能性が高い。

そこで、本研究では、日本語母語話者と日本語学習者のほめの返答における共通点と相違点を明らかにし、日本語学習者がスムーズにほめのやりとりを行うための提言を行うことを目的とする。

2. 先行研究

2-1-1　日本語のほめの返答

ほめの返答研究では男女差、地位の違いに焦点を当てた丸山（1996）の研究があり、地位が異なる場合、ほめは発生しにくく、同性同士ではほめは受入れられやすく、異性間では否定されやすいとしている。また、ほめの対象を「所持物、外見、能力、性格、その他」に分類し、所持物、外見のほめは受入れられやすいが、技量、性格については受入れられにくいとし、ほめの返答には性別、地位だけでなく、ほめの対象による影響もあると述べている。

次に平田（1999）では、女性同士や同等の地位の場合、ほめの割合が高く、返答のタイプとしては回避が最も多く、次に肯定、否定の順に多いと指摘している。

ほめの返答スタイルについて調査を行った寺尾（1996）は、テレビのトーク番組と日常会話の「聞き書き」をデータに用い、日本語母語話者の返答は回避、受入れ、否定の順に多く、ほめの返答では否定するという日本人の一般的な意識と調査結果のずれを指摘している。

2-1-2　ほめの返答における対照研究

金（2012）は同じ東アジアの国である日本と韓国の母語話者を対象に親しい友人同士の自由会話におけるほめと返答を調査し、談話レベルで分析を行った。両国の返答の共通点として「回避」や２つ以上の意味の返答を行う「複合」を多用すること、相違点は繰り返しほめられた場合、日本語母語話者は否定方向へ変化し、韓国語母語話者とは異なる傾向を示すことを明らかにした。

日本語学習者を対象にしたものでは、横田（1985）が英語を母語とする日本語学習者の語用論的転移（プラグマティック・トランスファー）について紙面の談話完成テストによる調査を行い、英語母語話者、日本語母語話者との対照研究を行った。日本語学習者の語用論的転移は顕著に見られず、返答に否定を多く使用したのは、日本語でほめられたら否定するのが一番適当であると教えられた結果ではないかと考察している。

凌（2015）は日本語母語話者との接触場面における中国人日本語学習者のほめと返答スタイルについて来日１年以内の学習者 10 組を対象に初対面での自由な会話を録音し、その中から「対者ほめ」と「第三者ほめ」に対する返答を調査した。「対者ほめ」の持ち物の返答では日本語母語話者は回避が 100%、中国人学習者は回避と複合が 50%という結果となった。

2-2　先行研究に残された課題

横田（1985）では英語を母語とする日本語学習者の調査が行われたが、日本語学習者数が一番多い中国人日本語学習者への調査も必要性が高い。中国人日本語学習者を対象にした凌（2015）では、初対面での自由会話によるデータを使い、「第三者ほめ」をはじめとする様々な対象と返答を調査することができたが、1つのほめの対象についてのデータ数が少なくなってしまうというデメリットがみられた。

そこで本調査では、ほめの対象を統一した中国人日本語学習者の返答データを集め、日本語母語話者と比較し、共通点と相違点を明らかにする。

3. 調査及び分析結果

3-1　調査方法

本調査では、丸山（1996）平田（1999）で指摘された「ほめは同性、特に女性同士、同等の関係で発生しやすい」という点を考慮し、ロールプレイの人間関係の設定を同級

生の女性同士とした。人間関係は「初めて話す相手」と「親しい友達」との 2 種類、ほめの対象は「かばん（所持物）」と「発表（能力）」の 2 つとした。また、今回はほめ（相手の評価）に対して肯定的な自己評価を持っている設定とした。

調査対象者は関東圏内の日本語学校及び大学に在学する女子学生で、年齢は 19 歳～29 歳である。友人同士または 1 人での参加も可とし、1 人の場合は筆者が依頼した日本人学生の協力者と会話を行った。日本語母語話者（native speakers of Japanese；以下便宜上 JJ とする）は 20 名、中国人日本語学習者（Chinese learners of Japanese language；以下 CL）は来日 2 年以上のグループ（Chinese learners of Japanese language：Long-term stay；以下 CLL)が 20 名、来日 1 年以下のグループ（Chinese learners of Japanese language：Short-term stay;以下 CLS)が 16 名である。ロールプレイは日本語で行うため、CL は日本語能力試験 N 1 レベルの学習者とした。

調査方法はロールプレイによるほめの場面での会話データ、ロールプレイの会話に対するインタビュー（ほめの感想や返答理由等）の録音、アンケート（調査に対する評価、ほめに対する返答意識や感想）の記入の 3 つである。また、CL へはほめの返答における母語での規範意識を調べるため、ロールプレイ場面を中国語で設定した紙面での談話完成テスト（Discourse Completion Test；以下 DCT）も実施した。調査対象者には日本語の会話に関する調査とのみ伝え、ほめの調査であることは事前に伝えなかった。

調査手順はほめ手を A、ほめの受け手を B とし、各自ロールカードを黙読後、A から話しかける形で会話をスタートした。場面は同級生（①かばん②発表）、友達（③かばん④発表）の順で行った。以下にロールカードの一部を例として示す。

例 1　同級生にかばんをほめられる場面

【ロールカード A】役割：あなたは日本人大学生です。B さんは同じ年の中国人女子留学生で、同じクラスです。B さんとはまだ話したことがありません。

場面①：大学で B さんに会いました。B さんは今日とてもかわいいかばんを持っています。B さんに話しかけてほめてください。

【ロールカード B】役割：あなたは大学の中国人留学生です。A さんは同じ年の日本人女子学生で、あなたと同じクラスです。A さんとはまだ話したことがありません。

場面①：あなたは今日新しいかばんを大学に持って来ました。<u>かわいいので、そのかばんをとても気に入っています</u>。大学で A さんが話しかけてきました。A さんと日本語で話してください。

3-2　ほめに対する返答の分類

本論では金（2012）を支持し、ほめ及びほめに対する返答について、以下のように定義する。

ほめ：話し手が聞き手を心地よくさせることを意図し、聞き手あるいは聞き手に関わりのある人、物、ことに関して「良い」と認める様々なものに対して、直接的あるいは間接的に、肯定的な価値があると伝える言語行動である。　（金 2012：43）

ほめに対する返答：相手の「ほめ」に対して、ほめの受け手が明示的もしくは暗示的に行った言語行動、あるいは非言語行動である。　（金 2012：149）

3-3　データ及び分析結果

本調査では「かばん（所持物）」との比較のため、「発表（能力）」のほめの返答調査も行ったが、JJ にとっては母語、CL にとっては外国語である日本語での発表に対するほめという条件の異なる会話となるため、今回は JJ、CL とも同じ条件になる「かばん（所持物）」のデータのみを取り上げ、分析する。

3-3-1　「かばん（所持物）」での返答結果

ほめと返答の数え方はほめ手が異なる言語表現で発した発話を 1 つのほめと数える。1 つのほめに対して、「肯定、回避、否定」のうちのどれか 1 つが現れる場合は「単独の返答」とし表 1 に、2 つ以上が連続して現れる場合は 1 つの「複合の返答」として数え表 2 に示した。また、表 3 に示した返答の下位分類使用総数とは、単独、複合を合わせたすべての返答で使用された下位分類を 1 つずつカウントしたものである。

下位分類は、金（2012）を参考に、本調査データに合わせ一部項目を変更し、分類を行った。主な変更点は金（2012）の「ほめ内容の確認」に「驚き」と「とまどい」を入れ、「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」とし、「提供の提案」に「貸与」を入れ、「貸与・提供の提案」とした。下位分類は出現数が多かった「感謝・喜び」「賛同の発言」「控えめな同意」「情報・説明」「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」と CL の特徴的な返答として本稿で取り上げた「貸与・提供の提案」の説明を本調査の会話データより抜粋した具体例（下線部分：ほめの返答例）とともに以下に示す。

感謝・喜び：感謝あるいは喜びを表すことばを述べる。　（金 2012：151）

例 2 感謝・喜び

JJ1　：今日そのかばん、すごいかわいいですね。

CLL13：あー、<u>ありがとうございます</u>。

「そのかばん、かわいいですね」という JJ1 のほめに対して、CLL13 が「ありがとうございます」と感謝を述べている。

賛同の発言：ほめに対して同意する、あるいはほめの内容に対して賛成する。

（金 2012：151）

例 3 賛同の発言

JJ2　　：えっ、すごくかわいい。

CLS12：そうですよ、私もかわいいと思って買いました、ふふ<笑い>。

JJ2 が CLS12 のかばんを「すごくかわいい」とほめ、それに対し「そうですよ、私もかわいいと思って買いました」と相手のほめに同意している。

控えめな同意：ほめに対して、全面的に受け入れるのではなく、消極的に同意する。（金 2012：151）

例 4 控えめな同意

JJ2　　：今日かばんかわいいですね。

CLL17：あ、ありがとうございます。これ、お気に入りなんです。

「今日かばんかわいいですね。」という JJ2 のほめに対して、直接かわいいかどうかというほめには触れず、「お気に入りなんです。」と自分もほめられた対象に対し、肯定的な評価を持っていることを表し、控えめな同意を示している。

情報・説明：自分がほめに対してどう思うかは言わず、ほめの内容と関連する情報を述べたり、あるいはほめの対象について細かく説明したりする。ほめの内容が客観的な情報に移る、あるいは長い説明をすることに転移するため、「賛同の発言」とは異なる。（金 2012：156）

例 5 情報・説明

JJ1　　：今日かばんめっちゃかわいいね。

CLL13：あー、先日買ったばかりです。

「かばんめっちゃかわいい」という JJ1 のほめに対して、「先日買ったばかり」とほめられたかばんについて説明している。

ほめ内容の確認・驚き・とまどい：ほめ手の発話に対して、本当にそう思うのか、あるいは良さを認めてくれるのかを確認する。（金 2012：157）

また、驚きやとまどいを表したりすることで、肯定か否定かというほめに対する自分の意見を保留している。（戸森 2013：26）

金（2012）では「的確さへの疑問」に分類されている「そうですか」は音声的、表現的にほめ内容への強い疑念が感じられたもののみを戸森（2013）では「的確さへの疑問」

に分類し、強い疑念が感じられないものは「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」に分類、カウントした。

例 6 ほめ内容の確認・驚き・とまどい

JJ2　：今日、そのかばんすごくかわいいね。

CLS10：えっ、ほんと？ありがとうございます。うん、このかばんは、えっと先週買って。

「今日、そのかばんすごくかわいいね。」という JJ2 ほめに対し、「えっ、ほんと？」と驚きとともにほめ内容の確認を行っている。

貸与・提供の提案：ほめられたものをほめ手に提供すると提案すること。

（金 2012：151）

例 7 貸与・提供の提案

JJ3　：あーかわいい。私もこういうの欲しいなー。

CLL3：あ、そうなの？あー、この前ね、なんか私の誕生日の時、JJ3 からすーごく、なんか、きれいな、そのー、ワンピース、もらったから、ん、もし、これ好き、好きだったら、これ使ってよ、使っていいよ。

JJ3 の「かわいい。私もこういうの欲しい」というほめに対し、CLL3 が「自分も以前、JJ3 からワンピースをもらったから、もし好きだったら、使っていいよ」とほめられたかばんの提供を提案している。

表 1　単独返答の内訳と頻度、割合（小数点第 2 位で四捨五入）

返答	下位分類	JJ		CLS		CLL	
		同級生	友達	同級生	友達	同級生	友達
肯定	感謝・喜び	16（29.6%）	5（8.8%）	8（21.6%）	1（2.4%）	19（31.7%）	8（15.7%）
	賛同の発言	4（7.4%）	7（12.3%）	0（0.0%）	6（14.6%）	1（1.7%）	2（3.9%）
	控えめな同意	3（5.6%）	7（12.3%）	1（2.7%）	3（7.3%）	1（1.7%）	3（5.9%）
	同意のほめ返し	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	貸与・提供の提案	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（2.0%）
	誘い・紹介	0（0.0%）	1（1.8%）	0（0.0%）	1（2.4%）	0（0.0%）	1（2.0%）
小計		23（42.6%）	20（35.1%）	9（24.3%）	11（26.8%）	21（35.0%）	15（29.4%）
否定	不賛成の発言	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（2.4%）	1（1.7%）	0（0.0%）
	控えめな不同意	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
小計		0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（2.4%）	1（1.7%）	0（0.0%）

回避	冗談・照れ・笑い	1（1.9%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（2.4%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	情報・説明	1（1.9%）	0（0.0%）	2（5.4%）	1（2.4%）	8（13.3%）	3（5.9%）
	不利な情報・ほめの軽減	0（0.0%）	1（1.8%）	0（0.0%）	0（0.0%%）	0（0.0%）	1（2.0%）
	ほめ返し	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（2.4%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	ほめ内容の確認・驚き・とまどい	4（7.4%）	2（3.5%）	1（2.7%）	1（2.4%）	1（1.7%）	4（7.8%）
	無応答	0（0.0%）	3（5.3%）	1（2.7%）	4（9.8%）	2（3.3%）	6（11.8%）
	的確さへの疑問	0（0.0%）	1（1.8%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	話のそれ・そらし	0（0.0%）	1（1.8%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
小計		6（11.1%）	8（14.0%）	4（10.8%）	8（19.5%）	11（18.3%）	14（27.5%）
単独返答の合計		29（53.7%）	28（49.1%）	13（35.1%）	20（48.8%）	33（55.0%）	29（56.9%）

表 2　複合返答の内訳と頻度、割合

返答		JJ		CLS		CLL	
		同級生	友達	同級生	友達	同級生	友達
無変化	肯定	7（13.0%）	9（15.8%）	0（0.0%）	3（7.3%）	6（10.0%）	6（11.8%）
	回避	2（3.7%）	4（7.0%）	1（2.7%）	6（14.6%）	7（11.7%）	3（5.9%）
小計		9（16.7%）	13（22.8%）	1（2.7%）	9（22.0%）	13（21.7%）	9（17.6%）
肯定方向への変化	回避→肯定	5（9.3%）	8（14.0%）	18（48.6%）	10（24.4%）	11（18.3%）	8（15.7%）
	否定→肯定	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（1.7%）	0（0.0%）
	否定→回避	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（1.7%）	0（0.0%）
小計		5（9.3%）	8（14.0%）	18（48.6%）	10（24.4%）	13（21.7%）	8（15.7%）
否定方向への変化	肯定→回避	5（9.3%）	8（14.0%）	2（5.4%）	1（2.4%）	1（1.7%）	4（7.8%）
小計		5（9.3%）	8（14.0%）	2（5.4%）	1（2.4%）	1（1.7%）	4（7.8%）
その他	回→肯→回	3（5.6%）	0（0.0%）	2（5.4 %）	1（2.4%）	0（0.0%）	1（2.0%）
	肯→回→肯	1（1.9%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	否→回→肯	1（1.9%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	回→肯→回→肯	0（0.0%）	0（0.0%）	1（2.7%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	回→否→回	1（1.9%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
小計		6（11.1%）	0（0.0%）	3（8.1%）	1（2.4%）	0（0.0%）	1（2.0 %）
複合返答の合計		25（46.3%）	29（50.9%）	24（64.9%）	21（51.2%）	27（45.0%）	22（43.1%）

表 3　返答の下位分類使用総数

返答	下位分類	JJ		CLS		CLL	
		同級生	友達	同級生	友達	同級生	友達
肯定	感謝・喜び	36（40.9%）	20（22.5 %）	26（38.8%）	9（13.2%）	41（46.6%）	16（21.9%）
	賛同の発言	8（9.1 %）	20（22.5 %）	0（0.0%）	11（16.2%）	1（1.1%）	11（15.1%）
	控えめな同意	12（13.6%）	13（14.6%）	3（4.5%）	4（5.9%）	4（4.5%）	6（8.2%）
	同意のほめ返し	0（0.0%）	3（3.4 %）	4（6.0%）	2（2.9%）	0（0.0%）	1（1.4%）
	貸与・提供の提案	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（1.5%）	0（0.0%）	2（2.7%）
	誘い・紹介	0（0.0%）	1（1.1%）	2（3.0%）	3（4.4%）	0（0.0%）	4（5.5）
小計		56（63.6%）	57（64.0%）	35（52.2%）	30（44.1%）	46（52.3%）	40（54.8%）
否定	不賛成の発言	1（1.1%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（1.5%）	3（3.4%）	0（0.0%）
	控えめな不同意	1（1.1%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
小計		2（2.3 %）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（1.5%）	3（3.4%）	0（0.0%）
回避	冗談・照れ・笑い	2（2.3 %）	1 （1.1%）	0（0.0%）	2（2.9%）	1（1.1%）	1（1.4%）
	情報・説明	13（14.8 %）	8（9.0%）	8（11.9%）	9（13.2%）	15（17.0%）	9（12.3%）
	不利な情報・ほめの軽減	1（1.1%）	4（4.5%）	0（0.0%）	1（1.5%）	0（0.0%）	1（1.4%）
	ほめ返し	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	1（1.5%）	1（1.1%）	0（0.0%）
	ほめ内容の確認・驚き・とまどい	14（15.9%）	13（14.6%）	23（34.3%）	19（27.9%）	19（21.6%）	16（21.9%）
	無応答	0（0.0%）	4（4.5%）	1（1.5%）	5（7.4%）	3（3.4%）	6（8.2%）
	的確さへの疑問	0（0.0%）	1（1.1%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
	話のそれ・そらし	0（0.0%）	1（1.1%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）
小計		30（34.1 %）	32（36.0%）	32（47.8%）	37（54.4%）	39（44.3%）	33（45.2%）
計		88（100.0%）	89（100.0%）	67（100.0%）	68（100.0%）	88（100.0%）	73（100.0%）

3-3-2　JJ のほめの返答

「同級生」とのほめの場面では表 1 単独での返答が 53.7%と一番多い。内訳では単独の肯定「感謝・喜び」が 29.6%と一番多く、次に多いのが表 2 複合の返答「肯定→肯定」で 13%である。表 3 返答の下位分類使用総数では「感謝・喜び」の使用が 40.9%ともっとも多く、次の「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」15.9%の 2 倍以上の使用が見られた。「友達」の場面では複合での返答が 50.9%で単独より若干多い。複合の内訳では「肯

定→肯定」が 15.8%、「回避→肯定」と「肯定→回避」がともに 14%と次に多かった。単独の返答では「賛同の発言」、「控えめな発言」が 12.3%を占め、「同級生」で一番多かった「感謝・喜び」は 8.8%である。返答の下位分類使用総数では肯定の「感謝・喜び」と「賛同の発言」が 22.5%と一番多く、次に「控えめな同意」と「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」が 14.6%見られた。「友達」では多様な返答スタイルが使われているが、「同級生」では単独での肯定や「感謝・喜び」の使用が多数を占めるなど、返答のスタイルにある程決まった傾向が見られる。

3-3-3　CL の返答

CLS の「同級生」では複合の割合が 64.9%と多く、内訳では「回避→肯定」が 48.6%と一番多い。次に割合が多かったのは、単独での「感謝・喜び」で 21.6%である。返答の下位分類使用総数では「感謝・喜び」が 38.8%で、次に「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」が 34.3%である。「友達」では複合の返答が 51.2%と多く、内訳では「回避→肯定」が 24.4%と一番多く、「回避→回避」と単独での返答「賛同の発言」がともに 14.6%である。返答の下位分類使用総数では「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」が 27.9%ともっとも多く、次に「賛同の発言」が 16.2%である。

CLL の「同級生」では単独の返答が 55%と一番多く、内訳では「感謝・喜び」が 31.7%を占め、次に複合の「回避→肯定」が 18.3%である。返答の下位分類使用総数では「感謝・喜び」が 46.6%と最も多く、次が「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」で 21.6%である。「友達」では単独の返答が 56.9%と多く、内訳では「感謝・喜び」と複合の「回避→肯定」がともに 15.7%である。返答の下位分類使用総数では「感謝・喜び」と「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」がともに 21.9%を占めている。

CL も JJ と同じように「同級生」の返答ではある程度決まった傾向が見られるが、単独の「感謝・喜び」の使用が多くを占める JJ の返答に対して、CLS は複合の返答「回避→肯定」がもっとも多く使われている。CLL は JJ と同じ単独の「感謝・喜び」の使用が一番多いが、次に「回避→肯定」も多く使われている。

表 3 の返答総数では JJ と CL とも「感謝・喜び」の使用が一番多い。JJ と CLL が 2 番目に多い「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」より「感謝・喜び」のほうが 2 倍以上の割合を占めているのに対して、CLS では「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」の割合も多く、「感謝・喜び」とあまり差が見られなかった。

次に「友達」の場面を見ると、表 3 の返答総数で JJ が肯定の「感謝・喜び」と「賛同の発言」で 5 割近くを占めるのに対し、CLS は回避の「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」が一番多く、CLL では「感謝・喜び」と「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」が同じ割合を占めることが分かった。また、CL のみに見られた特徴として「貸与・提供の提案」が会話データで 3 例、DCT で 1 例見られた。

3-3-4　DCT における CL の返答結果

CL に実施した紙面での DCT の一部内容を例として以下に提示する。

例 8　CL 用 DCT

ロールプレイと同じ場面で中国人の同級生や友達にほめられたら、どのように返答しますか。ほめられた時の感想と返答理由も書いてください。返答は中国語と日本語訳を書いてください。

1. 同級生：那个包，好可爱啊。　※同級生は女性で、まだ話したことがありません。
   あなた：

次に DCT に見られた CL の返答の下位分類使用数について結果を述べる。

「同級生」の場面では CLL は 41 の返答が見られ、「感謝・喜び」が 19（46.3%）が一番多く、次は「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」13（31.7%）であった。CLS は 28 の返答が見られ、「感謝・喜び」が 16（57.1%）が一番多く、次は「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」8（28.6%）であった。

「友達」の場面では CLL は 38 の返答が見られ、「賛同の発言」が 16（42.1%）が一番多く、次は「情報・説明」9（23.7%）であった。CLS は 26 の返答が見られ、「賛同の発言」が 9（34.6%）が一番多く、次は「ほめ内容の確認・驚き・とまどい」6（23.1%）、「情報・説明」5（19.2%）であった。

CL の中国語と日本語での返答を比較すると、「友達」の場面で大きな違いが見られた。中国語の結果では、「感謝・喜び」の割合が日本語の結果より CLL21.9%→5.3%、CLS13.2%→3.8%と著しく低くなり、「賛同の発言」の割合が CLL15.1%→42%、CLS16.2%→34.6%と増えている。もう 1 つは日本語の会話データには 1 つも表れなかった「自慢」が、中国語 DCT では 5 例表れている。以下に「自慢」の説明と具体例を示す。

自慢：ほめを受け入れ、同意し、さらに自分のことを高く評価すること。

（金 2012：151）

例 9 自慢（本調査の DCT から抜粋）

友達　：那个包，好可爱啊。

CLS5：是吧。我眼光还不错吧。（でしょう。私、目が高いよ。）

4. 考察

同等の関係である同性の相手から肯定的な自己評価を持っている所持物をほめられた場合の返答について、JJ と CL で比較し、以下の特徴が明らかになった。

まず、疎の関係にあたるはじめて話す「同級生」へのほめの応答の特徴では、JJ と CLL は単独での「感謝・喜び」、CLS は「回避→肯定」の複合が一番多く使われており、

同等の疎の関係では決まった返答が使われやすいことが分かった。

次に親の関係である「友達」の返答では CL にのみ会話、DCT で「貸与・提供の提案」、DCT で「自慢」の使用が見られた。

「貸与・提供の提案」は会話データで CLL3、CLL7、CLS16 の 3 例、DCT では CLL6 の 1 例が見られた。会話データの 3 例は最初のかばんに対するほめのやりとりの後で、かばんの説明や買った店の話になり、再度 JJ がほめを行った際に「貸与・提供の提案」が行われている。CLL3 では JJ3 の「あーかわいい、私もこういうの欲しいなぁ。」というほめに対し、CLL3 が「あ、そうなの？あー、この前ね、なんか私の誕生日の時、JJ3 からすーごく、なんか、きれいな、そのー、ワンピース、もらったから、はい、もし、これ好き、好きだったら、これ使ってよ、使っていいよ。」と返答している。CLL7 では JJ1 の「いいね。」というほめに対し、CLL7 が「うふふ<笑い>、欲しい？」と質問し、JJ1 が「ちょっと欲しい。」と答えている。CLS16 では、JJ14 が「いいなー、私も買い物に行きたいよ。」と羨望と自分の願望を表明すると、CLS16 が「あ、ほんと？一緒に行きます？私は今日このかばん、私の服、よく似合わないんです。もし・・・、この後は、JJ14 は、デートする、つもりの時は、これ、貸しますよ。」と買い物へ誘った後、改めて貸与の申し出を行っている。DCT では「那个包，好可爱啊。（かばんかわいい）」というほめに対し、CLL6 は「喜欢的话、送給你。（好きだったら、あげる）」と返答している。

CL からの「貸与・提供の提案」を受け、JJ3 は「えっ、いいの？使っていいの？」、JJ14 は「[驚いたように]ほんと？」と驚きを表していた。そのことから、JJ のほめの発言には「貸与・提供」を期待した意図はなかったことがうかがえる。JJ 1 は CLL7 からの「欲しい？」という提案に「ちょっと欲しい」と答えているが、「今度（国へ）帰った時に買ってきますよ。」という発言に「あ、まじで？やった！」と驚きと喜びを表していた。

では、なぜこういったやりとりが発生したのであろうか。CL のインタビューでの返答理由を見ると、CLL3 は「中国では、自分だったら、自然なことで、欲しかったらあげるのは普通」、CLL7 は「友人に関しては、本当にかわいいと思うかという確認や、好きなものはシェアしたいという気持ちがあるから、今度買ってくるという話になった」、CLS16 は「友達だから、いいものは積極的にシェアしたいので、本当は自分もかばんを気に入っているが、『今日の服装に似合わないから、貸しますよ』といった」というものだった。一概には言えないが、中国においては親しい友人と積極的にいいと思うものをシェアしたいという考えがあり、ほめられたものを「貸与、提供すること」は、それほど珍しくないようである。

それに対し、JJ 同士会話では「貸与・提供の提案」の返答は 1 つも見られず、金（2012）の調査でも日本語母語話者の使用は見られなかった。CL の返答を聞いた JJ が一様に驚いていたことからも、かばんのほめに対して「貸与・提供の提案」は JJ には馴染みが薄いように思われる。例えば、ほめ手が家族や姉妹といった身内であれば、普段から服

やかばんの貸し借りが行われる可能性が高く、相手から明確な「貸与・提供」の依頼がなくとも、所持物のほめのみで「貸与・提供の提案」が行われる可能性はあるかもしれない。しかし、日本での友人同士の場合では、かばんや服の貸し借りはあまり頻繁に行われていないように思われる。そのため、相手から明確な「貸与・提供」の依頼や意思表示がないと、「貸与・提供の提案」はしにくいのではないだろうか。

こういった日中での親しい間における物の貸与・提供に対する考え方の違いが、「所持物のほめ」→「ほめられた物の貸与・提供の提案」→「ほめ手の驚き」といった会話の流れを生み出したと考えられる。また、返答の直前で行われた JJ3 の「私もこういうのが欲しいなー」というほめや JJ14 の「いいなー、私も買い物行きたいよ」という発言も、CL に JJ からの「貸与・提供」の意図を感じさせ、「貸与・提供の提案」の返答を誘発させてしまった可能性も高いと考えられる。

もう一つの CL の特徴的な返答として、「自慢」がある。金（2012）は「自慢」を「相手の笑いを誘い、その場の雰囲気を和ませる機能を持っている」反面、「表現自体は相手に失礼になる恐れがある」と指摘しており、CL も失礼になる恐れがある「自慢」は JJ との会話では控えた可能性が高い。これに対して「貸与・提供の提案」は、ほめ手に対して「失礼」になる恐れが少なく、むしろ親しい関係であることを示せると CL が考え、JJ との会話で使用した可能性が高い。

本調査の結果では、親しい関係である「友達」の場面で、母国での規範意識の影響から、JJ には使用が見られない「貸与・提供の提案」が CLS、CLL ともに見られた。それは親しい関係での「親しさの示し方」において、母語の語用論的転移がおこったからだと考えられる。DCT に見られた「自慢」も「親しさの示し方」に関わる返答だが、相手に失礼になる可能性が高いものは、転移がおこりにくいと考えられる。

5. おわりに

本調査では、これまで日本語教育であまり取り上げられなかった友達とのほめの場面で、CL の返答に母語の語用論的転移が生じることが分かった。今回の結果を受け、ほめの場面でおこりうるミス・コミュニケーションを防ぎ、スムーズにやりとりを行う上で、形式的な表現の指導だけでなく、自分たちがほめや返答にどういった意識を持っているのかも考えられるような授業の必要性を強く感じ、これを提言としたい。

参考文献

金庚芬（2012）『日本語と韓国語の「ほめ」に関する対照研究』ひつじ書房

小玉安惠（1996）「談話インタビューにおけるほめの機能－会話者の役割とほめの談話における位置という観点から－（1）」『日本語学』5 月号，pp.59-67．明治書院

寺尾留美（1996）「ほめ言葉への返答スタイル」『日本語学』5 月号，pp.81-88．明治書院

戸森優季（2013）「中国人日本語学習者のほめに対する返答研究」埼玉大学大学院文化科学研究科日本・アジア研究専攻修士学位論文

平田真美(1999)「ほめ言葉への返答」『横浜国立大学留学センター紀要』l6，pp.38-47．横浜国立大学

丸山明代（1996)「男と女とほめ－大学キャンパスにおけるほめ行動の社会言語学的分析－」『日本語学』5 月号，pp.68-80．明治書院

横田淳子（1985)「ほめられたときの返答における母国語からの社会言語学的転移」『日本語教育』58，pp.203-217．日本語教育学会

凌宇（2015)「接触場面における中国人日本語学習者のほめと返答スタイル－日本語母語話者との比較を通して－」『言語文化と日本語教育』48/49（合併号)，pp.106-109．お茶の水女子大学日本言語文化学研究会

付記

本稿は埼玉大学大学院文化科学研究科に提出した修士学位論文（戸森優季､2013）に加筆・修正をくわえたものである。

（早稲田大学日本語教育研究センター非常勤インストラクター）